

銀漢亭日録



伊藤伊那男

1月19日(金) ▼発行所「葛句会」選句あと店へ六人。京都の中田剛さん初めて来店して下さる。閑散にてゆくり話ができる。気仙沼の小野寺和人さん、相撲観戦あと清人さん、千葉さんと。

20日(土) ▼日本橋館の与志喜にて「纏句会」。角川俳句賞受賞でニューヨークから帰国した月野ぼなさん(伊那北高校後輩)をゲストに迎える十五人。句会あと鮭の幽庵焼、牡蠣のみぞれ煮、握り。十八時、銀漢亭にて、月野ぼなさんの受賞を祝う会。三十人程。一句ずつ祝句を贈る。(笑ひ初めのため目の本に戻りしと) 酒や料理の差し入れ沢山。

21日(日) ▼妻の命日。九十二年となる。伊集院静先生から線香届く。京都のWちゃんからも供物。十六時、京王プラザホテルのエミネンスホール。石寒太先生の「炎環創刊三十周年記念大会・祝賀会」。歌人永田和宏さんの講演「ことばの力」歌で思ひを伝える」を聞く。十八時より祝宴。中華風料理。秋尾敏、対馬康子、大高翔、高柳克弘、神野紗希さんと同席。帰宅して娘夫婦と小酌。

22日(月) ▼朝より雪。とても店は開いても無理。アルバートの太田うさぎさんには出勤ストロップの連絡。雑用もあり、仕入れて店へ。仕込みその他をして帰ろうとしたが、新年会準備の井蛙、いづみ、麦、展枝、羽衣衣さんが来て帰ろうとせず。やむなく「ふくの鳥」で雪見酒。

23日(火) ▼十七時、パレスホテル東京。第六十三回角川俳句賞授賞式。月野ぼなさん受賞にて駆けつける。あと店に戻る。二十時半位から、会の流れの方々来店。朝妻力さん。島田牙城さん中心の「里」の方々。遅れて月野ぼなさん登場。発行所は銀漢演芸部の打ち合わせ。杉良太郎の「すきま風」練習に呼ばれる。あと、餃子屋。あれ！昨日と全く同じメンバー。

24日(水) ▼快晴ながら寒い。店、「雛句会」十五人。国会議員のT

だが、この日は節分会で賑わう。けんちゃん汁や漬け物、野菜の天麩羅などの接待あり。十四時からの祈禱に参加。十一人の祈禱僧。鬼が二匹出て、私が豆撒き役の一人に。甘酒いただく。絵島囲み屋敷、井上井月の墓を訪問し、取材を終える。「高遠句会」の守屋明、三溝恵子さんが現地参加で案内して下さる。守屋さんの車でかんばの宿諏訪へ投泊。

4日(日) ▼八時発、湖畔に行き、五年振りという御神渡りを見る。信濃国二之宮、矢彦・小野神社へ。敷地を接した神社で、矢彦は御柱が樅、小野は赤松。天竜河畔の洩矢神社と藤島神社。寒風と風花の中。洩矢は縄文系、藤島は出雲系で、対決した場所。「古事記」が神話でなく歴史であることを実感する。辰野の小坂鯉店で打上げ。洗い、鯉濃、うま煮、酒は「夜明け前」。最後に鰻丼も。あずさ号では昏睡。十八時帰宅。

5日(月) ▼彗星集評書いて三月号終了。店、「かさ、ぎ勉強会」あとの十一人店へ。朽木直さん、「Oh! 花見句会」の案内発信。池田のりをさん。

6日(火) ▼国会議員のT先生。閑散にて二十二時前に閉める。

7日(水) ▼「ささらぎ句会」あと六人。「宙句会」あと十三人。

8日(木) ▼NHK俳句の伊那谷吟行記掲載は来年一月号の予定だが、忘れないうちに、と原稿三千五百字分、一気に下書きする。店、「極句会」あと十一人。あす健康診断にて酒控える。

9日(金) ▼「あ・ん・ど・うクリニク」で区健康診断。宮地眼科へも。元伊勢神宮欄干・河合真如氏、宮澤と来店。「銀漢」への基金下さる。退任後、「芭蕉の真意」を探索されておられ、そのことを紹介した記事が一月に読売新聞に載り、執筆した記者が何と、銀漢の会員、竹本吉弘さんであったことに驚く。

10日(土) ▼十時、発行所にて運営委員会。午後、「銀漢本部句会」。五十二人。あと「酔仙」にて親睦会。カラスミ第二弾四腹を水抜き、酒漬けにして帰宅。

11日(日) ▼武田編集長の肝いりで、秩父の猪鍋を食う会。三回目。

先生。今年初めて来店。郷里の先輩、今井さん(岩波書店OB)など。

25日(木) ▼先般入会の林さん、紹介者のさくらさん。発行所は新年会の演芸部門の打ち合わせ、練習。「銀漢」誌の発送などで二十人位の人が出入り。私は遠山の金さん役で入場するので、杉良太郎の「すきま風」の練習。なかなか難しい曲なのである。

26日(金) ▼発行所「門」同人会へ貸し出し。あと「金星句会」。終わって五人店へ。

27日(土) ▼青山梅窓院にて亡妻光代十三回忌法要。二階貸席にて直会。持参の自家製カラスミ大好評。そのあと、杏一家ともども家に戻り、更に思ひ出話など。

28日(日) ▼十三時より全国家電気館五階にて「銀漢年次総会・新年俳句大会」。十五時、湯島天満宮に会場を移し、新年の祈禱あと新年会。私は遠山の金さん役で登場。あと銀漢亭に三十人程集まり、「すきま風」の合唱。

29日(月) ▼鈴木忍さん。事業部、新年大会の後片付け。会の熱気をまだ引きずって何となく活気ある一日。

30日(火) ▼酷寒の月末。閑散。二十一時半閉める。

31日(水) ▼最悪の超閑散。二十時半に閉めて帰宅。

2月1日(木) ▼「十六夜句会」あと十五人。金融会社時代の女子社員が新入会。また雪となる。

2日(金) ▼「大倉句会」あと十七人。対馬康子さん久々。「河」同人の若い二人。竹内洋平さん夫妻など。

3日(土) ▼朝六時、新宿駅東口交番前。NHK出版、長坂、神谷、カメラマンの板野さん。当方、禪次、一斗、井蛙。NHKの車で信州へ。八時過ぎ、諏訪大社参拝。神長官守矢史料館、柳川英司氏の説明を受ける。ここはいつ来ても不思議な空間。伊那谷に入り、伊那市東春近の天竜川にてざざ虫漁を見せて貰う。あと小笠原商店を訪ね、寒天干の説明と干し場などを案内していただく。心太をご馳走になる。高遠へ向かい、城の後方、峰山寺へ。無住寺

十一時過ぎ、芦ヶ久保の水柱を見て、秩父。常楽寺などを巡り、「桂」へ。総勢二十二名。五句出しの句会をしながら猪鍋。私が途中、卵、芹などを買い足して最後のおじやで締める。駅前で二次会。帰宅すると成城仲間五家族位が二十数名来ていて仲間入り。

12日(月) ▼高幡不動尊にて「春耕新年俳句大会」。快晴。盤水先生の墓参り。新年宴会で開会の辞。あと恒例の増田屋蕎麦店にて二次会。

13日(火) ▼校正。「火の会」七人。他は閑散。

14日(水) ▼十一時半、神保町のクッチーナイタリアンアングロにて武田花果「手毬」、鳥織布「犬の瞳に」の出版を祝う会。「梶の葉句会」の方々。花果さんには「手毬突く四つ四国の大三角」。織布さんには「犬の瞳には妻しか見えず日脚伸ぶ」の祝句を。店は超閑散。

15日(木) ▼十六時、井月忌の集いの打ち合わせ。北村監督、井ノ口、平沢、宮下、大野田さん。「銀漢句会」あと十六人。入沢さん三人。

16日(金) ▼発行所「葛句会」あと店に六人。「閨句会」(ホトトギス藤森壮吉さん) 九人。俳壇賞パーティーあとの秋尾敏、佐怒賀直美さんなど。

17日(土) ▼十一時、大宮駅。井蛙さんと落ち合い、氷川神社に参拝し奥信州という蕎麦店。まるで田埂のように積み上げた恐るべき量の蕎麦。大盛りを注文したわけではないのに。生涯で蕎麦を食べ残したのは初めて。四十代のとけ、盛岡のわんこ蕎麦を一一八杯食べた私が……。十三時、盆栽町にて「彩の国句会」。庄平さん丁寧な句会運び。松山さんもゲストで。十七時、大宮駅近くの「日本海」にて親睦会。魚良し。酒は「メ張鶴」「麒麟山」。

18日(日) ▼原稿書きなど。十六時、浅草駒形どぜうへ。光汪、井蛙さんと伊那北高三人の会。あと浅草寺参拝。生牡蠣屋、神谷バ1。そこへ、宝塚観劇あとのうさぎ、いづみ、展枝、淳子さんが日比谷で飲んでいるというので合流す。結局、乗り越し、戻り越しなどをしてへロへロで帰宅。